

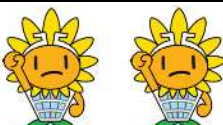
■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	2018～2019年度 トヨタ自動車九州株式会社小倉工場増築工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	-------------------------------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.3 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	1.0 /5		がんばろう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点)		評価 凡例	よい 4 点以上 
			ふつう 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル：CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.2	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.9	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.1
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.7
<自由記述>		<自由記述>	
		・内装材は耐用年数20年以上を使用 ・主要な用途：給水管、排水管、通気管：C以上、Eは不使用	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.4	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.7	LR2/ 1.1 節水	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
ライフサイクルCO2排出量81%		・節水型水栓を採用	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.0	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
<自由記述>		<自由記述>	
・既存緑地を保存		・空き地率80%以上	
4 高齢社会への対応		スコア平均 1.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	建物の外皮性能 (BPI評価)	
		非住宅：BPI値、住宅：省エネ等級	
		0.7	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅：BEI値、住宅：—	
		0.75	
		外構緑化指数	
		26.2 %	
		建物緑化指数	
		0 %	

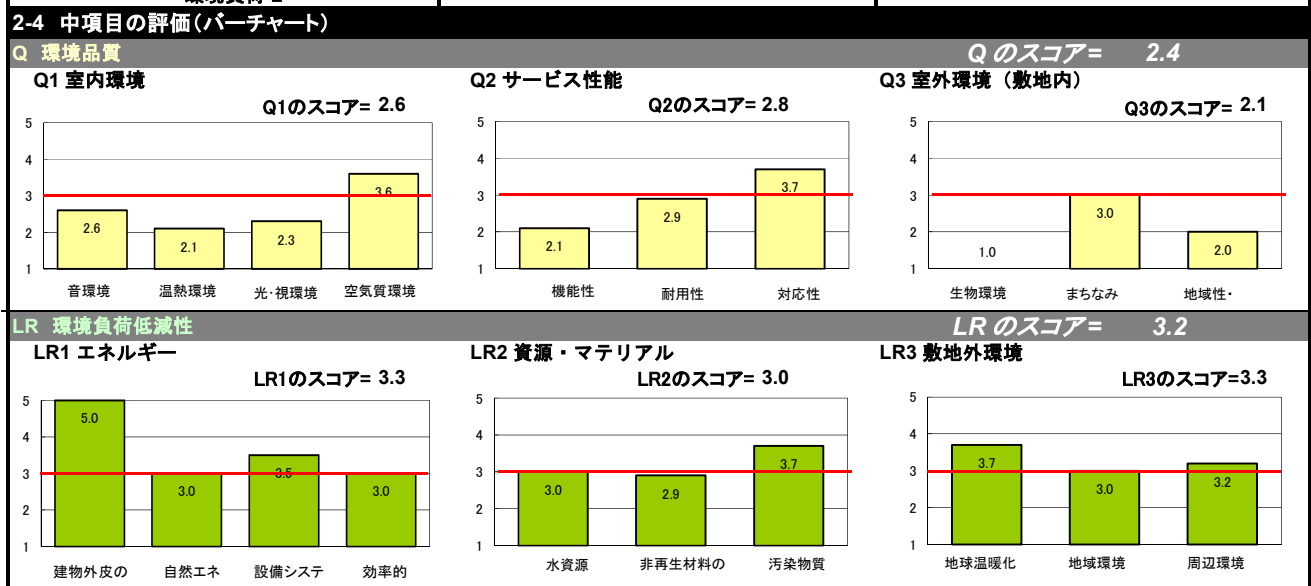
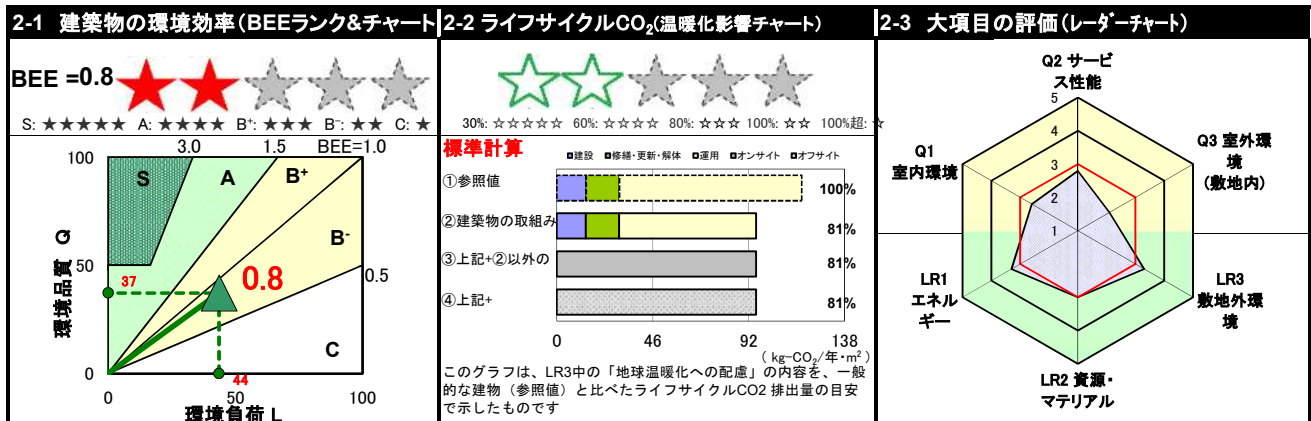
: 入力欄

: CASBEE—建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	2018～2019年度 トヨタ自動車九州	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市小倉南区大字朽網	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年4月20日
敷地面積	339,356 m ²	作成者	定森 淳一
建築面積	19,656 m ²	確認日	2018年4月20日
延床面積	20,367 m ²	確認者	中島 仁志



3 設計上の配慮事項		
総合 ライフサイクルCO ₂ 排出量81%に抑制し、地球温暖化に配慮		その他 特になし
Q1 室内環境 内装材及び天井裏の材料はF☆☆☆☆を使用し、空気質環境に配慮	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管及び内装材料を使用し、サービス性能に配慮	Q3 室外環境 (敷地内) 既存緑地を保存し、敷地内環境に配慮
LR1 エネルギー 事務所用途ブラインドで日射遮蔽し、省エネルギー性能に配慮	LR2 資源・マテリアル 発泡断熱材不使用で、資源・マテリアルに配慮	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出量81%に抑制し、地球温暖化に配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 2018~2019年度 トヨタ自動車九州株式会社小倉工場増築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.4
Q1 室内環境			0.30		-	2.6
1 音環境		2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.1	0.35	-	-	2.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性	事務所用途:ゾーニングがされており、冷暖房の選択可能	4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.3	0.25	-	-	2.3
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	事務所用途:内装材及び天井裏はF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能	事務所用途:自然換気有効開口面積は1/30以上	4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.8
1 機能性		2.1	0.40	-	-	2.1
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.50	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.50	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		1.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	床:長尺塩ビシート20年,壁:ボード張20年,天井:ガルバリウム鋼板20年	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途:給水管、排水管、通気管:C以上、Eは不使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.5	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.25	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.25	-	-	
3 電気設備		3.0	0.25	-	-	
4 機械・配管支持方法		1.0	0.25	-	-	
5 通信・情報設備		-	-	-	-	

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.9	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	工場用途組付室6.6m 事務用途基準階: 階高3.22m	4.9	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 主用途基準階0.046	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井スペースの確保により、構造部・仕上げ材を痛めず更新可能	4.0	0.22	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.22	-	-	
3	電気配線の更新性	将来用予備配線により、構造部・仕上げ材を痛めず更新可能	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制	事務用途ブラインドで日射遮蔽	5.0	0.00	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.12	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.75	3.5	0.62	-	-	3.5
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	節水		3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	容易に分別可能な構造、配管・配線は躯体に埋設していない	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発砲断熱材の使用なし	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車施設の確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害及び広告物照明におけるチェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	